

いきいき亀山

2024年4月発行 日本共産党亀山市議団

3月
定例議会
の報告

一般会計と後期高齢者医療事業特別会計の予算案の2議案に反対

3月定例会は、予算議会です。総額357億1,830万円となる各会計の新年度予算案を含め、40の議案が上程され全ての議案が可決されました。

日本共産党市議団としては、問題がある食缶搬入方式の給食事業が含まれていること、かねてからの市民要求に応えるものにならないこと、正規職員率が低い職員体制などを理由に、令和6年度一般会計の予算案に反対をしました(反対5名 櫻井・伊藤・今岡・服部・福沢)。

また、保険料について大幅な値上げが含まれる令和6年度後期高齢者医療事業特別会計の予算案にも反対をしました(反対2名 服部・福沢)。

8千人の署名の声を一顧だにしない 食缶搬入方式の給食予算

質疑・質問が集中 予算決算委員会では修正案も出される

一般会計予算案では初めて『中学校全員喫食制給食実施事業(食缶搬入方式)』の予算2,153万円が入りました。民間事業者への思いやり予算ともいべき7年間にわたる『債務負担行為の限度額』8億1,559万5千円もあります。エレベーターの仕様の変更など、説明、資料が不十分で質疑・質問が集中しました。

特に予算決算委員会では一般会計予算から中学校全員喫食制給食実施事業関連の歳出・歳入を減額した修正案が提出されました。福沢みゆき議員は、食缶搬入方式の給食は大きな問題があると考え、この修正案に賛成しましたが賛成者少数(櫻井・伊藤・今岡・福沢)で否決されました。(※服部こうき議員は委員長のため採決に加わらない)

亀山駅周辺に市庁舎建設で市が選定

3月27日の議会全員協議会で市庁舎建設予定地の選定について5つの候補地から「亀山駅周辺」が選定されたと報告がされました。ただし大まかなエリアを示しただけで建設場所は特定されていません。新庁舎は「低層階(3階建て)」の建物で、集約型(本庁舎、関支所、総合保健福祉センター、総合環境センターに分散しているのを集約)を基本にするとしています。

この亀山駅周辺は、浸水想定区域等を含むため一定の安全性を図る必要があり、また市有地がほとんどなく(文化会館用地だけ)、用地取得等だけでも14億4,500万円(あくまで試算、移転補償費等は含まれていない)かかります。

総事業費95億円をどう確保するのか

新庁舎建設は総事業費で95億円と試算されています。

その財源の内訳は以下の表の通りです。

国の補助金	起債(借金)	庁舎建設基金	一般財源(自己資金)	合計
5億円	55億円	20億円	15億円	95億円

新庁舎の開庁を2030年度に予定していますが、これだけの財源をどう確保するのかが大きな課題です。

庁舎建設基金は今年度末で15億円となりますが、目標まであと5億円の積み立てが必要となり、また一般財源(自己資金)として15億円が必要となります。

ごみ処理施設の更新や学校施設の改修と並行してできるのか

櫻井市長は3月議会で今後、市庁舎建設(2030年開庁予定)やごみ処理施設の更新(2029年には稼働を終える)、学校施設等長寿命化計画(計画実施期間は2026年度~2035年度)に基づく改修計画など多額の予算が必要な事業が重なると再三述べてきました。

党市議団は現在の財政状況を踏まえ、ごみ処理施設や学校の改修などと並行してできるのかを財政面から明らかにし、この場所が妥当なのかも含めて市民間で十分に議論することを求めます。

給食格差は続く こんな「県下初めて」はいらない

センターも給食室も建てず、ほとんどを民間に委託してしまう、このような給食方式は県下初めてです。本会議、委員会での質問・質疑を通して分かったことですが、この給食方式では、共通献立となったとしても、現在のデリバリーの弁当と同じで、地場産食材は使いづらく、調理後、喫食までの時間・アレルギー対応など、命にかかる課題は解決せず、学校間の格差は続きます。

日本共産党市議団は、直営で市内平等、安全で安心で美味しい給食が行われるまで決して諦めずがんばります。



子育てを応援する予算が不十分

医療費(窓口)無料の拡充・給食費無償化を

全国で子どもの医療費無料を18歳年度まで行っている市町村は69%と大勢を占めるまでになっています。亀山市のように15歳年度まで止まっている市町村は28%です。

福沢みゆき議員は、子育て支援というならば医療費(窓口もふくめ)無料について、15歳年度から18歳年度へ拡大、そして学校給食費の無償化にせめて小学校からでも取り組むべきと指摘しましたが消極的な答弁でした。

望まれる児童発達支援センター 計画も予算もなし

児童発達支援センターは児童発達支援を行うほか、施設の有する専門性を活かし、相談を受け、障がい児やその家族だけでなく、保育所などにも援助・助言を行う地域の中核的な療育支援施設です。国は令和5年度末には設置を目標を示していましたが、亀山市にはありません。計画もなく予算になんの計上もされていません。真に求められているセンターです。子育てしやすい街を目指します。



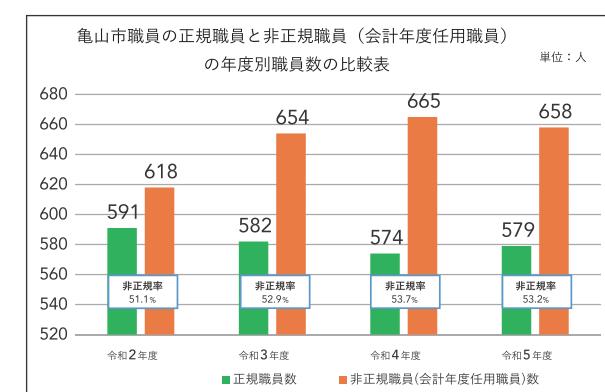
亀山市は市職員の53%が非正規 災害対応は大丈夫なのか

3月議会で福沢みゆき議員が市の職員体制を質しました。

右のグラフの通り、この4年間に正規職員は591人から579人に減少し、一方で非正規の会計年度任用職員は618人から658人に増えています。

その結果、市職員に占める非正規職員の

割合は53%にもなっています。これは業務量の増大に対して正規職員を増やすらず、非正規職員を増やしそれに対応してきたことによるものです。



保育士などの専門職の正規化を進めるべき

能登半島地震では、職員数を減らし続けてきたことが大きな人員不足を生みました。福沢みゆき議員が亀山市の災害時の人員を質したところ、市は正規職員だけで対応し消防や医療センターの職員は別に対応するため420人での対応となると答弁しました。

普段1,200人を超える職員で業務をしているのに、災害時にはその3分の1で対応するのは到底無理があります。

党市議団は市民サービスの充実のために必要な部署への正規職員の増員を求め、とりわけ保育士、看護師、保健師などの専門職で正規職員を増やすよう求めています。

市政や暮らしの相談、ご意見は



服部こうき

でんわ 82-3646

メール kouki.giin@gmail.com



福沢みゆき

でんわ 080-3636-9190

メール fukuzawa2138@gmail.com

この市議団ニュース「いきいき亀山」は
政務活動費を使って発行しています。

市議団ホームページ

議会映像インターネット配信

